



↑ 1 宇都宮空襲後の写真 (1945年) (二荒山神社から 南東方面)
※カラー化：東京大学 渡邊英徳研究室

わかるかな？

陸軍第14師団が、満州から帰還する際に宇都宮に持ちこまれたものはなんでしょう？

- ① ギョーザ 
- ② シューマイ 
- ③ ワンタン 

4 戦災を生き抜いたまち 宇都宮

ことば

◆ 師団
軍隊の部隊編成単位の一つ。



↑ 2 県庁移転祝賀会 (菊地愛山「県庁新設祝賀の図」)
1884(明治17)年に栃木から宇都宮へ県庁が移転された際の様子が描かれています。祝賀会は前日から、各町から山車・屋台などが引き出され、おはやしが鳴り響き、屋にも関わらず花火が打ちあげられ、県庁移転が盛大に祝われました。



← 3 三島通庸
1883年に栃木県令に就任し、県庁を栃木から宇都宮に移しました。また、大通りもこのとき整備されました。

↑ 戊辰戦争後の宇都宮

1868(慶応4)年にはじまった戊辰戦争では、宇都宮城と宇都宮城下の多くが焼失してしまいました。その後復興し、1884(明治17)年に宇都宮に県庁が移転されると、県都として発展していくことになります。さらに、1904(明治37)年に日露戦争が始まると、市内にも陸軍の師団誘致運動が起こり、第14師団の駐屯が決定しました。後には軍需工場が進出するなど、軍関係の施設が整備されていきました。太平洋戦争中は、宇都宮も空襲の標的となり、数度の空襲を受けました。その中でも、1945(昭和20)年7月12日の空襲では大きな被害を受け、東武宇都宮駅から国鉄宇都宮駅までのあたりは、焼野原となってしまいました。戦後、宇都宮はいち早く復興を成し遂げました。その後発展を続け、今の宇都宮へつながっていきます。ここでは、明治以降の宇都宮の発展について見ていきましょう。

「明治初期に、鬼怒川沿いに大きな工場があったそうよ。何の工場だったのかな？」

「宇都宮空襲では、どれくらいの人が犠牲になったのだろう？」

「宇都宮は、どうやって戦後復興したのだろう？」



動画を
見てみよう！



学習問題 明治維新後、宇都宮はどのように発展していったのだろうか。



世紀	BC/A.D.1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
	縄文	弥生		古墳		飛鳥	奈良	平安		鎌倉				室町	戦国	江戸	明治	昭和	平成	令和		
														南北朝	室町	安土桃山	徳川	江戶	明治	昭和	平成	令和

▶ 宇都宮藩から宇都宮市へ

戊辰戦争後、文明開化の波を受け、宇都宮は近代的なまちに生まれ変わっていきます。ここでは、明治維新後の発展について見ていきましょう。

1 県都宇都宮の誕生

1871(明治4)年の廃藩置県によりできた宇都宮県は、1873年には栃木県と合併になり(→p.46)、県庁が栃木におかれました。その後、宇都宮への県庁移転運動を経て、1884年には宇都宮が県庁所在地となりました。1896年には、市制施行により「宇都宮市」が誕生し、名実ともに栃木県の政治・文化・経済の中心地となりました。

2 宇都宮の近代工業のはじまり

明治維新後、宇都宮にも近代的な工場が造られます。1871(明治4)年に創業を開始した石井村の大崎商舎(→p.46)は、県内ではじめての西洋式器械製糸工場で、近代工業の先がけとなりました。日露戦争後の好況期には、製紙工場や製粉工場などができ、生産も飛躍的に増加していきました。

3 日露戦争と陸軍第14師団の誘致

1904(明治37)年に日露戦争が起こると、軍事力の強化が求められる。1905年、宇都宮の有志から、陸軍の師団誘致の運動が起こりました。翌年、県議会で県が駐屯地用地を寄付する旨の意見書が提出され、1907年9月軍令で第14師団の駐屯が決定し、市内各地に関連施設が建設されました(→p.47)。

4 明治から大正にかけての宇都宮

1885(明治18)年に、大宮～宇都宮間の鉄道が完成して、宇都宮駅が開業し、翌年には宇都宮～黒磯間、1890年には宇都宮～日光間が開通するなど、鉄道網が整備されていきました。

また、道路網が整備され、1917(大正6)年には乗り合いバスが営業を開始するなど、宇都宮の街並みが整備されてきました。この頃、二荒山神社南の「バンパ」広場に常設の屋台店「仲見世」ができ、バンパと呼ばれる繁華街になりました。

1899(明治32)年に宇都宮電灯会社が設立され、市内にはじめて電灯がともされました。さらに、1911年には、宇都宮瓦斯会社が設立され、ガス供給が開始されます。1913(大正2)年には、上下水道整備工事が開始され、1916年に給水が開始されると、市民生活は大きく向上しました。



↑ 1 明治期の西洋式製糸工場 大崎商舎
大崎商舎は、1871(明治4)年に川村伝左衛門(辻叟)が石井村に設立した宇都宮最初の近代的大規模工場でした。(栃木県立博物館蔵)



↑ 1 川村伝左衛門(辻叟) (個人蔵)
江戸日本橋で材木商を営んだ、幕府御用達の商人。宇都宮藩の山陵修繕事業に資金を提供しました。明治時代には、石井村に西洋式の器械製糸工場の大崎商舎を設立しました。→p.46



↑ 1 第14師団司令部正面 (宇都宮市立図書館蔵)
師団司令部は、現在の国立病院機構栃木医療センターに置かれました。



↑ 1 大正時代の二荒山神社前の大通り



↑ 1 主要都市を空襲するB-29爆撃機



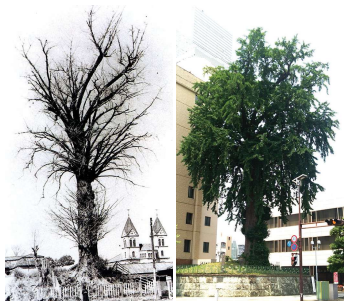
↑ 2 東武宇都宮駅周辺
中央の建物が、東武宇都宮駅のホームと電車です。



↑ 3 オリオン通りから見た県庁
真ん中の建物が、現在の昭和館である県庁です。



↑ 4 いちはやく復興したパンパ仲見世



↑ 5 空襲後の大いちょう ↑ 6 現在の大いちょう

太平洋戦争時の宇都宮空襲

陸軍の第14師団が駐屯し、陸軍の飛行場や中島飛行機生産工場など、多数の軍需工場(→p.48)があったことから、アメリカ軍は宇都宮を重要な都市の一つであると考えていました。1945(昭和20)年3月10日の東京大空襲の後には、地方都市に対する空襲が本格的に始まりました。そして、宇都宮は7月12日午後11時10分に115機のB-29爆撃機により空襲を受けました。

1 宇都宮空襲の被害

7月12日の空襲では、当時の宇都宮市の約半分に焼夷弾が落とされ(→p.50)、大きな被害を受けました。雨の中、夜間に行われた空襲のため、多くの市民が逃げ遅れてしまいました。空襲は、13日の1時39分までの間、約2時間30分も続きました。この空襲で、620人以上の方が亡くなり、1128人以上の方が負傷、9173戸以上の家屋が焼夷弾によって燃えてしまいました。実際はもっと多くの被害があったと考えられています。また、宇都宮市周辺にも広く焼夷弾が落下し、焼失家屋も数十軒に上っています。

7月12日以外にも、宇都宮は戦闘機による空襲を受け55名以上の方が亡くなっています。宇都宮における空襲全体の死亡者数は、675名以上になります。

戦後発展するまち宇都宮

宇都宮空襲で市街地の大半は焼失しましたが、戦後いち早く戦災復興土地地区画整理を進め、全国でもまれに見る復興をとげました。1949年には、パンパ仲見世が復興し、映画館が立ち並び、にぎわいました。

ここでは、戦後発展の様子を見ていきましょう。

1 戦後復興のシンボル 大いちょう

空襲で現在の中央1丁目にある大いちょうも被害を受け、熱風により葉が落ち、表面に煤がついた状態になり枯れてしまったと思われましたが、翌年には新芽をふき、青々とした葉を茂らせました。空襲にも負けなかった大いちょうの姿は、戦後の宇都宮市民を勇気づけ、宇都宮の戦後復興のシンボルとなり、今でも市民に親しまれています。

空襲後の大いちょう / 現在の大いちょう



2 戦後復興する宇都宮

空襲による戦後復興は、がれき処理と清掃、水道の修復、罹災者に対する住宅の確保が最優先で行われました。市内にあった多くの14師団施設は、私立学校等(→p.55)に姿を変えました。

1946年になると、戦災復興院の指導を受け、復興計画を策定して、計画のもと復興事業が行われました。1947年になると、一般住宅をはじめ多くの建物が建てられ、復興率は98%となり、わずか2年でほぼ復旧し、全国一早い復興都市とも言われました。

さらに1957年までに、周辺の1町10か村を合併し、大きく市域を広げ、人口も増えました。

3 軍都から工業都市へ

戦災復興過程で都市機能を整備した宇都宮市は、1960年になると宇都宮工業団地(平出工業団地)を造成し、工業都市へ発展していくことになりました。平出の平地林を開発し、約70社の工場の誘致を実現しました。1970年代になると、清原に宇都宮清原工業団地、瑞穂野に瑞穂野工業団地の造成が始まり、多数の企業があつまり、工業都市として発展していきました。

4 宇都宮の発展

工業都市へ発展していく中で、道路では東北自動車道や北関東自動車道、鉄道では東北新幹線が開通し、交通網が整備されていきました。宇都宮は交通の要地として、また物流の拠点として発展してきます。さらに、宇都宮環状線(通称宮環)が開通し、ますます便利になっていきました。

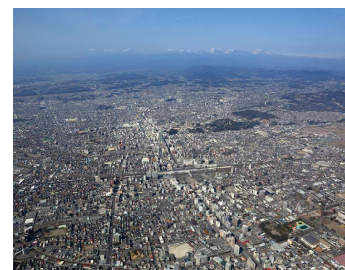
1996(平成8)年には、市制100周年となり、ろまんちっく村、子どものもり公園、宇都宮美術館など、様々な施設がつけられました。さらに、2006年には、上河内町と河内町が合併しました。2026年には、市制130周年を迎えました。



↑ 7 終戦から1年後の二荒山神社付近



↑ 8 造成中の宇都宮工業団地



↑ 9 現在の宇都宮市の中心部(東部から西方を望む)

まとめる ひろげる



戊辰戦争により、宇都宮城及び城下の大半が焼失し、明治以降に県都として、そして軍都として発展していった宇都宮ですが、宇都宮空襲により、またも市街地の大半が焼け野原となってしまいました。軍用地は、学校や官用地として再利用され、軍都としての面影は次第に薄れていきました。そして戦後、工業団地を造成し、多くの企業を誘致し、工業都市として発展していくことになりました。2016年に市制120周年をむかえ、ますます発展を続けています。戦時下の生活や空襲、戦後の復興や発展について気になったことを調べてみよう。